Ⅱ 教育課題　第6分科会　社会を形成する力

■研究課題■

社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

分科会の趣旨

東日本大震災や豪雨等による被災地においては，子どもたちが率先してボランティア活動を手伝ったり被災住民を励ます支援活動を行ったりする姿が多く見られた。こうした事例から地域の身近な人たちとの絆が改めて見直されており，地域コミュニティーを維持発展させていくことがますます重要と考えられる。校長は，これからの社会を生きる子どもたちにしなやかな知性と豊かな創造性，豊かな人間性を育むとともに，子どもたちが自己の置かれている状況を受け止め，他者と協力して社会の様々な活動に参画し，社会を形成する力の基礎を身に付けられるようにしていかなければならない。さらには開かれた学校として地域コミュニティーの核となり，社会とどう関わり，どのように貢献していけるかを考えた学校づくりを進める必要がある。

そのためには，子どもたちが考え行動するプロセスを重視し，地域の特色を生かした豊かな体験活動をさらに積極的に取り入れていくことが大切である。例えば，生活科，社会科，総合的な学習の時間などにおける，地域の特性を生かした学習内容や地域素材の学習内容について，発達段階に応じて系統的に整理したり，それらを関連付けたりして教育活動を創造することが考えられる。

また，学校の研究内容を「社会を形成する力の育成」と関連付けて見直し，「対象に働きかけ，主体的に問題解決に取り組む子ども」「自他のよさを認め，共に関わりながら学びを広げていく子ども」等，子どもに育てたい力について，「社会を形成する力」の観点から整理して教育課程を編成することも考えられる。

本分科会では，校長のリーダーシップのもと，将来の社会を形成する役割を担う子どもたちに，各教科等で身に付けた知識や技能等をもとに，より良い社会の形成に向け，主体性をもって社会の活動に積極的に参画し，課題を解決していく力や態度を養うための具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造

核家族化，少子化等による家庭の養育姿勢や地域コミュニティーの変化に伴う地域活動への参加機会の減少等により，子どもたちは家庭や地域において，社会性を高めたり人間関係を育み広げたりする機会が減ってきている。

学校には，家庭や地域と連携しながら，子どもたちに様々な人々や社会と関わり，社会生活の基本的ルールを身に付けさせるようにしたり，社会との関わりを豊かにしていく力を身に付けさせたりすることが求められている。さらには，社会の変化に対応し，より良い社会の構築に貢献できる力を育成することも求められている。

そこで，「地域マップづくり」「地域の伝統工芸を学ぶ」「地域のお年寄りとの関わり」「植花運動を行おう」など，地域の人との関わりや地域についての調査，地域の行事に参加すること等を通して地域の一員としての自覚を促すような教育活動を考えるなど，社会に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための，校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善

学校は，子どもたちに社会の仕組みを理解させ，自立した社会人として生きていくために必要な知識や能力を育み，社会の発展に積極的に関わろうとする態度の育成を目指した教育課程を編成する必要がある。

そこで，社会づくりに貢献しようとする意欲と態度を育て，自立した社会人として生きていくための基礎となる力を身に付けさせる教育課程を編成・実施・評価・改善していくための，校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第６分科会　研究課題：社会を形成する力

研究発表

社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

帯広地区　帯広市立緑丘小学校　　山　崎　則　夫

Ⅰ　趣　　旨

国の第２期教育振興基本計画では，第１期取組の反省を受けて，学習意欲・学習時間，低学力層の存在，規範意識や社会性欠如などの改善に向けた施策が重点化されている。その根拠は，端的に言えば，社会を形成する力の育成である。帯広市においても「次代を担う人づくり」と「ともに学びきずなを育む地域づくり」を柱とする教育基本計画を策定しており，その方向性において国と同じである。

帯広市小学校長会では，このことを踏まえて，昨年度から，キャリア教育の「人間関係・社会形成能力」の育成に視点を当てた研究を展開してきた。全体指導計画の充実及びキャリア教育のフィルターを通した児童の社会性を培う教育課程を作成した学校の実践から学び，平成26年度の各学校の経営方針に反映させたところである。

一方，本年１月，道小研修部は，渡島・北斗大会の成果と課題を検討し，第６分科会の研究内容等の見直しと整理を図った。すなわち，国の教育振興基本計画を基盤にキャリア教育での「社会形成能力」と本分科会で目指す「社会を形成する力」との押さえを明らかにしたのである。

帯広市小学校長会では，これを受けて，研究の全体構造を再構築した。本研究の趣旨は，関連法令，国や北海道並びに本市の教育基本計画を十分吟味した上で，本市の教育を「社会を形成する力」の育成という視点でとらえ直し，教育課程を編成する校長の役割と指導性を究明することにある。

Ⅱ　研究の概要

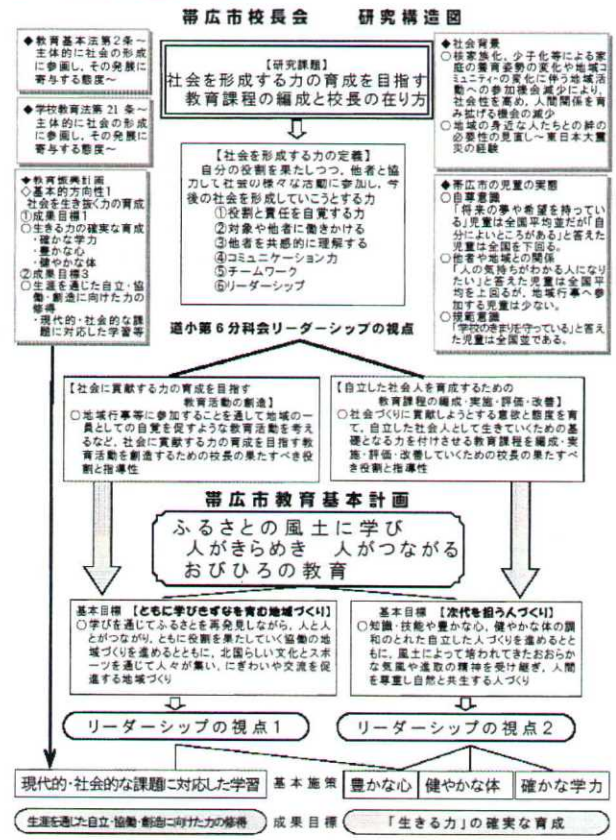
1　帯広市の児童の実態

平成25年度全国学力・学習状況調査児童質問紙結果に見る，帯広市の児童の「自分自身や他者，社会との関わりに関する意識」の実態は次のとおりである。

(1)　自分自身に関わることで，規範意識と将来の夢や目標をもっている児童の割合は全国並である。しかし，自尊感情は全国平均を下回っている。

(2)　他者を理解しようとする意識は，全国を上回っているので，地域の行事等体験活動を充実させることで，身の周りの事象に対する関心を高めることができると考えられる。

2　研究の全体構造図



3　帯広市小学校長の意識調査（平成25年度実施）

第２期教育振興基本計画基本的方向性１「社会を生き抜く力の育成」の成果目標１『生きる力の確実な育成』と同３の『自立・協働・創造に向けた力の修得』に関わって，校長が経営の中で重視していることは次のとおりである。

(1)　確かな学力
　①　言語活動の充実を位置付けた授業改善及び教育課程の編成
　②　学びの約束及びノート指導の重視
　③　家庭と連携した家庭学習の指導

(2)　豊かな心
　①　地域の自然及び環境保全体験活動
　②　地域の産業や歴史を学ぶ体験活動
　③　祖父母との交流

(3)　健やかな体
　①　継続的な体力づくり，体力テスト体験コーナー設置
　②　体育の授業の工夫

③　遊びの推奨
(4)　現代的・社会的な課題に対応した学習
①　環境保全
②　地域・防災安全教育
③　スポーツ・国際交流
④　人権・消費生活

Ⅲ　具体的な実践例

リーダーシップの視点１
1 社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造
(帯広市基本目標「ともに学びきずなを育む地域づくり」)

(1)　地域組織・行事と教育活動の関連付け（Ａ小学校）
①　活動名「人と自然・人と人の絆を深める川」
②　活動のねらい
自らが暮らす地域の自然（帯広川）の豊かさを肌で感じることで，郷土愛が醸成されるとともに，指導や安全確保のお世話を行う人々（帯広川伏古地区子どもの水辺協議会）との交流や勉強会を通して，児童自身が地域の中で育まれていることに気付き，地域の人々との絆を深め，新たなふるさとの教育力を向上させる。
③　教育課程上の位置付け
１・２年は生活科。３～５年は総合的な学習の時間
④　活動内容
ア　講義・観察・体験活動
・学校でさけの稚魚の飼育観察，５月に放流
・川遊び，水質調査，水生生物観察
・川辺の植樹，ゴミ拾い
・川や人の暮らしについての講義
イ　発表・交流学習
・川マップの作成（水質・生き物調査，ゴミ）
・水と暮らしの関係や国際問題について発表
⑤　校長のリーダーシップ
ア　教育課程編成に関わって
・特色ある教育活動として位置付け，各学年の指導の目標と水辺協議会の年度の活動との整合性を図るよう教頭を通して教務主任に指示する。
イ　実施に関わって
・安全面や専門性など，学校単独で実施できるものではない。水辺協議会を中心に地域住民及び賛同企業や行政の協力をいただいている。
・協議会の総会・講演会などに校長・教頭が参加し，顔の見える関係を築いている。会合には，地域の多くの方が集まっており，開かれた学校づくりに大きな役割を果たしている。
ウ　評価・改善に関わって
・教職員・保護者アンケート，内部評価，学校関係者評価で改善を図る。結果は，学校便り及びホームページで公表する。

(2)　祖父母に地域を学ぶ教育活動（Ｂ小学校）
①　体験活動名「昔を学ぶ会」
②　活動のねらい
地域のお年寄りとの体験を通じて，尊敬の念や思いやりをもたせる。また，自分たちの住む地域の先人の苦労を知り，地域に対する関心を深めさせる。そして，ふるさとに対する愛着や誇りをもち，将来，地域の一員としてふるさとに貢献しようとする気持ちを育てる。
③　教育課程上の位置付け
３～６年　総合的な学習の時間
④　活動内容
ア　お話し会とテーマ決め
・お年寄りを招き，昔の体験談を聞く。（１時間）
【内容】昔の学校生活・遊び，十勝鉄道，戦争
・個人テーマを決定し，調べ方，まとめ方の大まかな方針を立てる。（１時間）
イ　昔について調べる活動・発表
・聞いた話をもとに，子どもたちが，それぞれのテーマに沿って調べてまとめる。（７時間）
・調べたり，まとめたりした学習成果を地域のお年寄りや保護者の前で発表する。（１時間）
ウ　体験学習
・発表後，お年寄りが講師となり，昔の食べ物や道具作りの体験学習を行う。（３時間）
【内容】せんべい焼き体験，石臼体験，ぞうりづくり体験，下の句かるたとり体験など
⑤　校長のリーダーシップ
ア　教育課程の編成に関わって
・特色ある教育活動の推進に向け，地域の教育力（人材・資源）の積極的な活用や豊かな体験を取り入れる教育課程の編成方針を学校経営の重点として明確に示す。
・「絆を育む学校づくり支援事業」を活用し，教師のアイデアを取り入れた創意ある教育活動を推進する。
イ　実施に関わって
・講師の人選等のため，校長自ら地域に出て，早い段階から情報収集を行う。
・教育効果を高めるためには，講師との詳細な打ち合わせが必要になる。教務主任・担当者を指導し，複数回の打ち合わせを持つ。
・地域との密接なつながりを保つため，全戸に案内を配布し，意義や教育活動の様子を積極的に配信する。
ウ　評価・改善に関わって

・保護者アンケート，内部評価，学校関係者評価をとおして，内容の改善につなげる。
・以前から継続されている地域と連携した教育活動（目標・指導計画）の吟味・精選も視野に入れて改善を図る。

リーダーシップの視点２
2 自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施評価・改善（帯広市基本目標「次代を担う人づくり」）

(1) 各教科等の「社会を形成する力」を教育課程に位置付ける（Ｃ小学校）

Ｃ小学校では，キャリア教育を通して各教科における「社会を形成する力」を育成する要素を洗い出し，それらをつないだクロスカリキュラムを作成し，社会を形成する力の育成の充実を図った。

① 実践例【第３学年】(17時間)
「大好きな自分　なりたい自分　みんなと生きる自分」

ア 社会科『私たちの町』13時間
私たちが暮らす町の土地の様子や公共施設などから特色をとらえる。
（○対象や他者に働きかける力○リーダーシップ）

イ 総合的な学習の時間『～ＮＰＯ法人から学ぶ～機関庫の川と遊ぼう』（２時間）
地域を流れる機関庫の川の水質調査から，川の自然を守るために自分ができることを考える。
（○役割や責任を自覚する力）

ウ 国語『気持ちを伝える話し方･聞き方』（２時間）
役割を決めて，機関庫の川から学んだことを保育園児にどのように紹介するか話し合う。
（○役割や責任の自覚○コミュニケーション力）

エ 国語・総合『保育園に行こう』（２時間）
（○他者に働きかける力○コミュニケーション力）

② 校長のリーダーシップ

ア 教育課程編成に関わって
・経営方針で重点課題として明示し，全職員の共通課題とする。
・校務運営会議で各分掌の重点課題に位置付けさせ，具体策作成を指示する。特に，教務主任には，学年・学級経営案への明記，教育課程へのリンク，「絆を育む学校づくり支援事業」の具体化を指示する。また，プロジェクトチームを発足させ，各分掌・学年の連携を図る。

イ 教育課程の実施に関わって
・保護者・地域・関係機関への情報発信と主要な施設へ出向き，経営の概要説明と協力を依頼する。自己目標シートとリンクさせ，進行管理させる。

ウ 教育課程の評価・改善に関わって
・学期毎の評価を実施し，改善点を明らかにさせる。また保護者アンケートを実施し，内部評価を行い学校関係者評価で成果と課題を明らかにする。

Ⅳ まとめ

1 成果

(1) 地域との関わりを切り口にした体験活動は，地域への興味・関心を拡げるだけではなく，人と積極的に関わろうとする気持ちや地域の一員としての自覚に結び付くという成果が得られるなど大変有効であることがわかった。

(2) 校長のリーダーシップ発揮の成否の鍵は，教育課程編成段階である。自校の児童及び地域の実態を的確につかみ，重点として取り組む課題を位置付けた経営計画を示すことが強く求められる。そして，分掌学年隅々まで浸透させるために，いかに組織を動かすかが校長の手腕の発揮どころである。さらに，地域組織との日常的な関わりをいかに進めるかも重要である。

(3) 「絆を育む学校づくり支援事業」等を分析する中で，これまで市内で実践されてきた教育活動の多くは，社会を形成する力の育成につながる要素が多分に含まれていることがわかった。

(4) 全く新たな取組に着手することが，社会を形成する力の育成のための必須条件ではなく，これまでの取組を視点を変えて再構築することが現実的である。

(5) この研究は，キャリア教育の「社会形成能力」からスタートしたが，「社会を形成する力」のより大きな視点で教育計画を見直すことができた。

2 課題

(1) 地域の人材や資源を有効活用して体験活動を充実させるために，市内全校で設置されている学校支援地域本部とのより一層の連携が求められる。

(2) 中学校区で組織されている幼保小中連携委員会の活動計画を，「社会を形成する力」のフィルターを通して見直す取組が必要である。

(3) 今後，社会を形成する力がどのような力であるか，その構成要素を研究し，より明らかにしていくために，実践の成果を交流することで解明が一層進むことが期待できる。

(4) 体験活動は教育活動の効果を高めるが，目標達成のためにどのような地域素材・体験が有効かを判断するリーダーシップが校長に求められる。